

## 『生』に寄り添う社会福祉 社大福祉フォーラム 2022

今年度の社会福祉研究大会は、記念すべき60回大会で、2022年6月25日（土）・26日（日）に、基調講演・シンポジウムと木田賞贈呈式の登壇関係者のみが清瀬キャンパス講堂に会しその模様をオンライン配信する形式で、また分科会・自主企画もオンライン形式で実施した。大会テーマは「『生』に寄り添う社会福祉―地域共生社会への挑戦と未来―」で、シンポジウムも「『生』に寄り添う社会福祉：実践からの学びとこれからの展望」のテーマで実施した。

25日午前の基調講演は、『令和3年版 厚生労働白書』（179頁）でも「誰もが支え合いに参加する地域づくり」として紹介された社会福祉法人佛子園の雄谷良成理事長による「ごちゃまぜ～地域を拓く共生福祉～」であった。基調講演では、佛子園の紹介動画がまず流された後、「ごちゃまぜ」という言葉がもつ深みについて、福祉的側面だけではなく事業承継やまちづくりの視点から、具体的な事業事例を紹介されながら、示唆に富むお話しがなされた。

特に、「ごちゃまぜって言うと、元気な人も、そうでない人も、障害のある人もない人も、あまねく全ての人たちを包み込んでくれるような言葉なのかなというふうに感じています。」「子どもたちは、いろんな人たちとかかわることで、大きく成長していく」、「人は人とかかわるだけで、交わるだけで元気になる。」といったお話しから、人間の幸せは人と人との関係から生まれるということを、再認識できた。

そして、「『支える』『支えられる』という一方的関係ではなく、全ての人を対象に誰もが『支え合い』に参加する『ごちゃまぜ』のまちづくりというコンセプトを下に」（同白書179頁）、展開されてきた諸活動を踏まえ、「今、日本は、世界の少子高齢人口急減のトップランナーですね。…私たちが今、少子高齢人口急減にどう対応するかということが、今度は私たちの後に続いてくる各国の、何か明かりになればいいかな、そういうふうに思います。」と言って、雄谷氏は基調講演を終えられた。

この基調講演を受け、同日午後に上述のテーマのシンポジウムが開催された。座長は菱沼幹男准教授、シンポジストとして菊池譲氏（社会福祉法人ナザレ園 副理事長）、酒寄学氏（社会福祉法人芳香会 地域生活定着支援センター長）、櫻井大悟氏（株式会社アニスピホールディングス 取締役）、藤野将睦氏（ピーサイドユー株式会社 代表取締役）の4氏、コメンテーターに岡崎俊彦氏（厚生労働省 移行支援専門官）、そして指定発言者として基調講演の雄谷氏が加わった。

菊池氏はキリスト教精神に基づく愛の実践を理念とするナザレ園における中間的就労支援を中心とした実践活動について、酒寄氏は罪を犯した障害者・高齢者に対する福祉サービス支援の実践活動について、櫻井氏は社会福祉法人ではない株式会社としての商いを通じたグループホーム事業に関する実践活動について、そして藤野氏は清瀬の福祉ニーズに基づき起業した株式会社として強度行動障害

を抱える障害児者を対象とする共同生活援助事業を中心とした実践活動について、報告された。

その後、岡崎氏のコメントでは、まずテーマの『『生』に寄り添う社会福祉』について、生を「キ」と読み取り、「ありのまま」に寄り添う社会福祉の実践活動としての解釈が述べられた。そして、4人のシンポジストの実践活動の意義を指摘したうえで、「福祉って何かというと、一人一人の幸せの実現というところなのですね。でも、一人一人の幸せって、一人一人、100人いれば100人違うという、一つそこが前提にある…あと福祉というのは、特定の限られた人のものではなくて全ての人が必要としている。…地域の状況とか、家族の状況とか、本人に障害があることによって、その人が生きづらく感じていたり、何か参加できないということがあるのであれば、その人たちが他の人たちと同じように生きられるように、…先駆的な事例をどんどん広めていただければというふうに思います。」とコメントされた。

シンポジウムの最後に、登壇者から学生諸君へ有益なメッセージが伝えられた。各登壇者からのメッセージは、本誌の「社大福祉フォーラム 2022 報告」に詳しく記載されているが、基調講演の雄谷氏からは、「プロとして三つのことは基本的にやろう…一つはしっかり食べる。…二つ目は、運動しよう。…三つ目は寝ると。…あまりうろろしないで、基本的なことをやる。…特に学生の皆さんだったら、今、100年時代ですから、あと80年ぐらいある…失敗したって大したことないんだから、…チャレンジした方がいいんじゃないですか…高齢者の皆さんからすぐ教えてもらえる。…ぜひチャレンジをしてほしいと思います。」とのメッセージが伝えられた。

今回の基調講演とシンポジウムは、学内学会会員諸氏とりわけ学生諸君に、本当に大きな刺激を与えるものになった。そして、社会福祉の世界は、狭い専門的な学問や実践の領域にとどまらず、生身の人間一人一人が、「ありのまま」寄り添い合いながら多くの人とかかわりを持ちながら、いつまでも元気で楽しく暮らしていく日々を求める世界である、との思いを強く持った。

最後に、基調講演者とシンポジストとコメンテーターと座長の皆様に、本年度の研究大会について色々な形で支援くださった竹内幸子教授、有村大士准教授、賛川信幸准教授さらには学内学会役員並びに事務局の皆様に、心より御礼を申し上げる次第である。

2023年1月

日本社会事業大学社会福祉学会会長  
日本社会事業大学学長

横 山 彰